

建通新聞

東京

日測協が大会

4年ぶりに対面開催

日本測量協会(清水英範会長)主催の「測量・地理空間情報イノベーション大会2023」集い再び」が13、14日の両日に東京都内で開かれた。初日には、大手測量会社によるDX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みの紹介や、国土地理院の大木章一参事官による特別講演など



が行われた。対面開催は4年ぶり。

大手測量会社のDXの取り組みでは、パスコ、国際航業、アジア航測、朝日航空の担当者がそれぞれ講演。3次元管内図

を活用した河川分野でのDX事例や、GNSS・IoTセンサー・衛星SARによるインフラ点検の省力化・効率化の取り組みなどを紹介した。

大木参事官は、「地理空間情報に関する国際動向」をテーマに講演。先進国の取り組みを紹介した上で、日本が目指している、地理空間情報活用の新たな展開をはじめとした、第4期地理空間情報活用推進基本計画の概要を解説した。

冒頭のあいさつで清水

会長「写真」は、「協会が自信をもって提供している大会だ。自分たちの勉強、交流、懇親の場としてフルに使ってほしい」と語った。

2日目は、女性の技術力向上委員会によるパネルディスカッション(働き続けるために)なども予定されている。オンデマンド配信は21〜30日を予定。オンデマンドのみの講演もある。共催は空間情報総括監理技術者の会、地理空間情報専門技術者の会。後援は国土地理院の会。